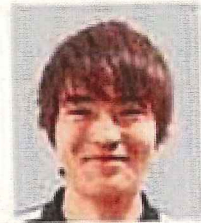


初めての衆院選

18歳からの一票

昨春閉校した旭川凌雲高の最後の卒業生です。小樽商科大に進学。小樽で一人暮らしをしています。住民票は生まれ育った東神楽町の実家に残したままです。

投票は地元とする予定で、故郷を離れ、育った地域の代表者を決める選挙に参加したいと一層、強く思っています。



西垣 昂 さん(19)

小樽商科大1年＝東神楽町

「故郷のため」必ず投票

になっています。

旭川市選管が、住民票を

家におきながら別のマチに暮らす学生らの投票を長年断っていたニュースには驚きました。今回発覚して自分は投票できますが、一票の大切さをもっと真剣に考えるべきだと思います。

大学では経済に関する知識を実践的に学びたい。サッカー部に所属し、焼き肉店でアルバイトもして多忙ですが将来は民間企業への就職か旭川

で街づくりに携わりたいとも思っています。

実は旭川市内の大学進学も考えましたが、国立大志望で選択肢が少なく、小樽を選びました。地元は就職先もあまり選べず、若者が流出しているのが実態。高齢者を支える社会保障や生活環境整備などを考えてくれる候補者に期待します。

「おわり」
（この企画は旭川報道部の川上舞、吉川幹弘が担当しました）